

国語国文学会だより



No. 52

2015. 5

日本文学科卒業生の会

国語国文学会

平成二十六年秋季大会 報告

平成二十六年秋季大会を十一月二十九日(土)、百年館にて開催いたしました。

◆午前の部(研究発表)

・スサノヲとオホクニヌシ——アメノヌゴト譚を通して—— 加野 友理氏

・「源氏物語」の女君と引歌表現——望月の君を中心—— 望月 美紅氏

・「木幡の時雨」の冒頭部に関する一考察——「衣通姫」「木幡」が持つイメージの摂取—— 伊達 舞氏

・伏見宮貞成親王と絵巻——日記に見る絵巻と貞成親王の周辺人物—— 剣持亜里沙氏

・「平家物語評判秘伝抄」——「今大路家書目録」から—— 阿部美知代氏

・荒木田麗女と野村東皐の関係——「月のゆくへ」序文解釈をめぐって—— 時田紗緒里氏

・高井蘭山「絵本三國妖婦伝」について 小野寺 光氏

・「蓬萊曲」——日本のルネサンス的人間—— 時津あずみ氏

・梶井基次郎「ある心の風景」と「冬の日」——社会を見る目と生の希求—— 近藤 のり氏

・坂口安吾「続戦争と一人の女」における一人称女語りと「女」 伊藤 あや氏

・安部公房「砂の女」の形式変化におけるテーマ変遷 土屋 優香氏

・五島美代子最終歌集「花激つ」——自由律短歌の獲得をめぐって—— 自由律短歌の 濱田美枝子氏

・「そして」と「それから」の意味の異同について 吳 謹藝氏

・武田泰淳「風媒花」について 李 娜娜氏

◆午後の部
公開講演会

・コーパスに基づく格外連体修飾形の研究 本学教授 田邊 和子氏

・昔話のおもしろさの秘密 小澤 俊夫氏

◆懇親会 於 七十年館生協食堂

秋季大会公開講演会

小澤俊夫氏「昔話のおもしろさの秘密」

「講演概要」ご講演の前半では、時間的文芸である昔話の特徴を「うまかたやまんば」やグリム童話の「白雪姫」などを例にお話しくださいました。昔話の文法の約束事とは、結末に「こころではおとぎ話でございます、私の責任ではありません」という挨拶が入ること、登場人物は一人であること、残酷な場面をリアルには語らないこと、同じ場面は同じ言葉で語り、安心感を与えること等だそうです。ご講演の全てをご紹介したいのですが、紙面の都合上ここにはご講演の後半の概略をご紹介します。

昔話は、色々なメッセージを発信しています。どうしても聞いてもらいたいのは「シンデレラ」についてです。ガラスの靴を置いてきたのは、実は三回目の舞踏会の帰りだとご存知でしたか。「グリム童話」「二十一番灰かぶり」を読んでみてください。こういう話です。

ある女の子が親に死なれ、継母に育てられています。その継母にも実の娘が二人居て、三人はいつも綺麗に着飾り、遊んでばかりいました。シンデレラばかりが汚い恰好をさせられ、寝る時は灰の中に寝させられる。「シンデレラ」というのは「灰まみれ」という英語の渾名です。

ある日のこと、王子の花嫁を選ぶための舞踏会が宮殿で開かれます。継母と実の娘二人は、綺麗に着飾って出かけようとします。シンデレラも連れて行ってほしいと継母に言うのですが、あなたには綺麗な服がないから連れて行かない、と置いていかれてしまうのです。しかし、彼女はどうしても行きたくて、皆が出かけた後に実の母のお墓に行きます。すると、そこに白い鳥が飛んできて、綺麗な服を落としてくれます。彼女はその服を着ると、見違えるような美しいお姫様になります。宮殿では、王子がどこかの見知らぬ美しいお姫様が現れたものですから、すっかり首ったけになって、他の誰とも踊らせようとしません。この人は僕のパートナーだと、実質プロポーズしています。しかし、ある時間が来

ると、なぜか王子の腕の中からスルツと抜け出して帰ってきて、また汚い服を着て、灰の中に寝ています。夜、継母と実の娘二人が舞踏会から帰ってきて、話すのです。今日はどこかの美しいお姫様が来て、王子様はその方に首つたけだったのよ、と。二度目、また置いていかれます。そしてまた、実の母のお墓に行く。すると白い鳥が飛んできて、前よりもっと美しい服を落としてくれる。彼女はその服を着ると前より美しいお姫様になる。それで宮殿に行きます。宮殿に行く、王子が、この間逃げられたお姫様がまた現れたので喜んで、今度こそこの誰だか確かめようと思いますが、また逃げられてしまいます。シンデレラは、また汚い姿に戻る。三度目、また置いていかれます。彼女はまた、実の母親のお墓に行く。白い鳥が、今までもよりもっと美しい服を落としてくれる。彼女はその服を着て、宮殿へ行きます。今度二度逃げられたお姫様がまた現れたので、王子はなんととしてもその素性を確かめようと、階段にタイルを塗っておくのです。シンデレラは逃げ帰る時にそのタイルに左靴を取られて置いてきてしまいましたが、王子は残された靴を頼りに、その靴に足の合う娘を探して、結局はシンデレラを見つけて結婚します。

皆さんが知っているのと全く違うでしょう。今の話、三回の繰り返しがあつてきれいだよ、という説明で終わつてもいいのですが、僕が長いこと引つつかつていたのは、結局シンデレラが王子のプロポーズを受けて結婚してしまえば、話は短くて済みますね。だけど逃げ帰つて、汚い姿に戻ります。でも「私は労働者階級でいいわ。宮殿なんか嫌。」となるわけではありません。またきれいな服をもらうと行つてしまふのです。しかし、王子が見初めると、また逃げ帰つてきてしまふ。あの行つたり来たりは何だったのか。

ある時ふと気が付いたのです。キーワードはあの「鳥」でした。実の母のお墓に現れたあの白い鳥は何者か。調べると、白い鳥というのは、文化人類学や神話学では死者の魂の化身と考えられるのです。「古事記」にも、雄略天皇が亡くなった時にシラサギという白い鳥になり舞い立ったという話がありま

すね。また日本では、人が死ぬと四十九日の間は人の住まいの周りにまだ魂がいると言います。ドイツでも、四十九日とは言いませんが、同じ考え方です。魂も鳥も飛んでいるのです。その「飛ぶ」というニュアンスが合体したのです。しかも、白いというのにはいつも神聖なイメージがある。だから白い鳥。これは、非常に多くの民族で言えるようです。そうすると、実の母のお墓に現れた白い鳥は、まさにもなくその母の魂の化身と考えられます。そうであるならば、それがくれた服を着た彼女の姿は、彼女の真の姿であるということが言えるのではないのでしょうか。彼女の本当のお母さんがくれた服を着た彼女は、彼女の本当の姿である。それが美しかったのです。彼女は普段はダークティだった。だけど本当は美しかった。そして王子は彼女の本当の美しさを見つけて、結婚しました。

そう考えると、僕は若者の行動そのものを語っているのではないかと思うのです。若者は、普段は親に心配かけたり先生に心配かけたり悪いことしたり、ダークティな姿で過ごしている。だけどそういう若者も、必ず時々自分の本当の美しい姿になりたいと思つて、僕は確信しているのです。自分の本当の美しい姿になったら、それを誰かに認められたいと思う。しかし認められたら何故かまたダークティな姿へ戻つていってしまう。そして、ダークティになつたままかという、そうではなくて、またしばらく経つと自分の本当の美しい姿になつて「認めてくれよ」とやつて来る。でも、また認めると逃げていってしまう。この行つたり来たりであると考えられませんか。「シンデレラ」の話というのは実はこの多くの若者の心理・行動を語っている物語だということに僕は気が付いたのです。

よくお母さん方が、「いつもはとても悪い子なのだけど、今はいい子なのです。でも、もう騙されたくないです。」と僕に訴えるわけです。僕は、「冷たいようだけど、儂い夢です。若者は騙そうと思つているのではありません。あれは振り子が振れている状態なのです。良い子である時は、それは振り子がふられて良い方に来ている時なので、振り子だからまた行つてしまふということを覚悟しててください。しかし同時に、振り子だから必ず戻つて来ます。そ

の時を待つていてやってください。」とよく言いました。また、「お母さんも、何か熱中するものを持つてください。自分の人生をちゃんとしてください。」とも言いました。「熱中すると言つても、テレビに熱中するとかそのようなことではなく、何か努力のいるもの。花作りや山登り、英会話の勉強でもいいし、音楽でも何でもよい。何か熱中するものを持つてください。そして子どもには、「あんたもう十八歳なのだから、自分の人生は自分で責任持つてよ。私の人生だつて一回しかないのだから、ちゃんとやりたいよ。」という権利はあるではありませんか、お母さん。」と、けしけししました。

「子供は振り子で、止めようといつても止められない。だつたら母親の方は、母親の人生をちゃんとやる。そうすると振り子は必ず終わる。止まらない振り子はない、必ずどこかで止まる。その間、お母さんの方は、自分の人生をちゃんとやってください。」とも言いました。でも、中には「私は、今あの子が荒れてしまつていから、私の全体的な時間をあの子のために捧けています。」なんておっしゃる方がいます。それが一番危険なのです。何故なら、子どもは親から独立したい、と苦しんでいるからです。動物だつてみんな親元を離れていくわけですが、でも、親のところにいた方が楽だし安心だし、離れたくない。しかし離れなくてはならない。そういう矛盾があるから、あやうつて（振り子のように）振れるのです。でもその時に、親が自分から抱きついていってしまったら、子どもの方はやりきれないです。非常に悪い結果になつていってしまう。それは二つあつて、一つは、子どもがそういう風にスポイルされて社会に出ていけないような子供になつてしまふこと。それからもう一つは逆に、子どもと親の関係が完全に切れてしまふこと。その二つの危険がある。高校に入つてすぐからでもいいと思いますが、もう十八歳を超えたら、親と子がそれぞれ別々の人格として人生を歩んだらいいとそういう風に僕はいつも思っています。

「シンデレラ」は作り話で、且つ本当にくだらない話です。だけどそう考えてみると、人間が生きていき成長していくプロセスを、とても深いところで語っているというのがよくわかるものなのです。だ

から僕は、昔話の形を壊さないでほしいと思います。デイズニーのように一回きりにすれば、振り子は出てきません。

最後に、昔話とは離れるのですが一つ聞いて頂きたいです。僕には、既に大人になっている息子が二人います。彼らが小さい時に、クリスマスツリーを作ってやろうとして、モミの木を買ってきて庭に植えました。モミの木はとても成長が早く、きれいなクリスマスツリーの形になったのです。でも植木屋が、「モミの木は成長が早すぎて、根がこの方までちゃんとしていません。だから放っておくと、風が吹いたらすぐ倒れちゃいますよ。」と言うのです。そして、途中で切られてしまいました。クリスマスにツリーが飾れると思っていたのに、秋頃に切られたのがびっくりしてしまいました。ところが二か月半くらいで完全に元の姿に戻ったのです。その時、僕は本当に衝撃を受けました。つまりモミの木は、「俺はこういう形だ。」と主張しているわけですね。このことを、何年か経った後に生物を専門にしている友達にしたら、笑われました。「当たり前だ。それはDNAだ。」とね。だけど、僕は文学をしている人間だからDNAなんて言葉は使わない。生きているものは皆、「形式意思」を持っている。自分はこのように姿でありたいという意思を持っているのです。哲学とか美学の方で使う言葉です。

Formville、生きているものや芸術作品は、自分はこのように形でありたいという意思を持っているという意味です。こうやってモミの木でさえしつかりした形式意思を持っているのだから、子どもたちは皆、しつかりとした形式意思を持って生きている、と僕は思うのです。大人から見ると、親から見ると、足りないところがいっぱいあるでしょう。勉強しないとか、さぼっているとか、怠けているとか、そういうものばかりが目についてしまう。だけど、子どもは子どもなりに自分の形式意思を持って生きているのだと、認めるべきなのではないでしょうか。今の話は、昔話から離れた話ですが、先程の「シンデレラ」の話を考えてみると、子供の成長や若者の成長なんていうテーマ性がとても強いので、聞いてもらいました。

昔話は僕たちの民族の大事な伝承文化財だから、

なるべく壊さずに次の段階・時代へ伝えるべきです。僕たちは昔話伝承の途中にいて、終点ではないのだ、ということですね。それは、水や土や空気のことを考えれば誰でもわかりますよね。汚してはいけないのです。次の世代のために、残さなければいけない。昔話も同じです。そのために努力しなくてはなりません。しかし、昔話は形が見えないため、壊されていることも分かります。誰も気が付かないで、子供だましの話だと思っているから、適当に作り変えて平気な顔をして出版したりするのです。親や大人の方が勉強して良い物をちゃんと選ぶということをしなければいけないのではないのでしょうか。

(文責：国語国文学会)

コーパスに基づく格外連体修飾形の研究

田辺和子

【要旨】

本研究は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ) (国立国語研究所 2012)」を使った調査に基づいて、連体修飾形の被修飾名詞の意味と連体修飾形の文法形式の関連について分析したものである。日本語の連体修飾形は、大きく二種類の形式に分けられる。まず第一の形式は、連体修飾節内部の用言の補語として関係を持つ、いわゆる内関係(寺村1982) (例：「昨日買ったりんご」を文に開くと「私は昨日りんごを買った。」)であり、第二の形式は、そのような関係がない外関係(寺村1982) (例：「大きな地震が起こる可能性」)である。本研究では、この外関係を格外連体修飾形と定めて考察を試みた。

言語類型学者である Comrie (1996, 1998, 2010) は、格外連体修飾形を “Asian-type” (Comrie 1996) と呼び、インドヨーロッパ言語の関係代名詞とは基本的に異なると記述している。

ただし、英語にも同様の that 構文という日本語の外関係に類似した表現があり、「学生が本を買った事実」という日本語の例文を挙げ、the fact that the student bought the book」という英訳とともにアジア言語特有の限定修飾節として、fact construction という名でこの格外連体修飾節構造を紹介している。

従来、格外連体修飾節の研究は、作例や研究者自身の内省に頼って議論を展開してきたが、本研究ではコーパスを使うことにより、多くの実例文を採取し、客観的な考察を行うことができた。本研究では、まず BCCWJ の検索結果から、「連体修飾形を形成しやすい一般名詞順位表」を作成した。この表では、BCCWJ コアデータから「中納言」という検索エンジンで、①一般名詞に動詞連体形が前方共起している用例、②普通名詞に動詞連体形が前方共起している用例、③②の中で動詞「た」を特定し、その前に動詞が前方共起している用例を検索し、④その名詞別用例数とその割合を示した。本研究では、その中から特徴ある使われ方をしている例として、第4位の「人」第7位の「場合」第33位の「問題」を格内・格外の使い分けられ方、格内に置いてはそれ利用された格の種類、共起しやすい動詞や助動詞の文法形式について分析を試みた。特に、連体修飾節内で主格名詞の前方共起する動詞のル形とタ形の対立の問題については、「話」「騒ぎ」について検討した。

名詞分析の視点としては、1 格内修飾形と格外修飾形の比率、2 格内の場合はその使用格、3 連体修飾節内の動詞・助動詞の文法形式、4 特に関詞の「ル形」と「タ形」の区別の有無に着目し、前述した名詞を分析した。

その結果、「人」においては、格内使用が非常に多く、そして、ほとんどが主格において利用されている。その理由としては、「人」という名詞が有生名詞であることが大きく影響していると推察できる。格外連体修飾形は、被修飾名詞の内容を説明するという役割を持ち、二語漢語であることが多い(例：子供を殺す動/店を開めた理由)。したがって、具体性に富む名詞は、格外連体修飾形は形成しにくいのである。

「場合」は、連体修飾節が「時」の指定をする「(す)るとき」の副詞のような役割をする文法化現象を起しており、その結果、従属節内の内容は、そのほとんどが格外連体修飾形となっている。

「問題」は、格内・格外双方に使用されている。格内の場合には、「解くべき問題」「起きた問題」というように強いコロケーション(連語)表現(例：問

題を解く、問題が起きる)があるときは、それが連体修飾節内の動詞となる場合が多い。格外の場合は、(例:日本や韓国を加える問題)というように問題の内容を伝える。助動詞接続の格外連体修飾形では、「(動詞のタ形)問題で、」という表現が多かった(例:馬券を買ったとして処分された問題で、警視庁は9日、XX元常務理事を……)。

本研究で連体修飾研究に寄与できた点としては、格外修飾節内の動詞のル形・タ形の使い分けについて、新たな仮説の提示ができたことである。従来、被修飾名詞が「話」であると直前の動詞はテンスもアスペクトも使い分けがなされ、一方、「騒ぎ」については、動詞が基本形のル形でもタ形で文全体のメッセージに大きな差がないと言われてきた。

例文・A 地震が起きる話

／B 地震が起きた話

AとBとは、内容に違いがある。

C 警官が出動する騒ぎにまでになった。

D 警官が出動した騒ぎにまでになった。

(参考:岩崎卓 1998)

CとDは、大きな差がない。

本研究では、BCDWTを利用し、考察してみたところ、基本的に「タ形」の方が多く使われていることが明らかになった。「騒ぎ」は、すでに出来事が起きていることがほとんどなので「タ形」利用が現実を反映している。しかし、連体修飾節直後に主文の文末が来る場合(例:「これは、騒ぎであった。」)においては、文全体の時制は、主文の文末によってわかるので、必ずしも連体修飾節内は、時制表示のタ形を置く必要がないので時制は表されないこともあると考えられる。

以上のように、本研究では、格外連体修飾構造における被修飾名詞の意味が節内の文法形式を決定づける要素と成り得ることをコーパスを用いて明らかにした。

文学散歩報告 (2014・11・6)

今年度の文学散歩は、文京区立森鷗外記念館と東洋文庫を訪れました。

鷗外記念館は、森鷗外の旧居(観潮楼)の跡地に平成24年11月にオープンしたものです。係の方から観潮楼正門跡、三人元語の石等の庭園、特別展、常設展の説明を受けた後、各自自由鑑賞致しました。特別展の「三越と鷗外」では「流行は意識して作るもの」という考え方の基に三越と共に様々な企画を催していた様子を知ることができ、文学者鷗外を別な視点から窺うことのできる展示でした。

東洋文庫は三菱第三代当主岩崎久彌氏が1924年に設立した東洋学分野での日本最古最大の研究図書館で、世界五大東洋学研究所図書館の一つに数えられているそうです。以前は研究者しか利用できなかったようですが平成23年にリニューアルしてからは、広く一般にも門戸を開放し、小岩井農場直営のレストランも併設され親しみ易くなりました。

係の方が終始説明して案内してくださいましたので所蔵されている本の貴重さがよくわかりました。特にモリソン文庫は、北京在住のオーストラリア人モリソン博士のコレクションを岩崎久彌氏がまとめて購入したもので、床から天井までぎっしり詰まった書棚は圧巻でした。

折しも創立90周年記念の特別展で貴重な岩崎コレクションの展示をしており、「解体新書」や「東方見聞録」、保存状態が良く色合いの鮮やかな浮世絵の数々も見せていただくことが出来ました。

身近な所で貴重なものを見学でき充実した一日となりました。

卒業生の会・常任委員より

◇連絡先(新規加入・変更・ご意見等)
郵送の場合
〒112-8681 文京区目白台二一八一

日本女子大学日本文学科国語国文学会卒業生の会宛(必ず「卒業生の会」まで記入してください)
Email: gradkai@fc.fujw.ac.jp

※卒業生の会には常設事務局がありません。お返事までにお時間がかかることもあります。ご了承ください。

研究室より

◇「国文目白」第五十四号「倉田(岩淵)宏子教授
退任記念号」が刊行されました。ご希望の方は
書でお申し込みください。「送料別、八百円(冊
子到着後払込)」▼(申込先)〒112-8681
文京区目白台二一八一 日本女子大学文学部日本
文学科研究室「国文目白」係

◇秋季大会(午前の部)研究発表会 発表者募集

・日時 平成二十七年十一月二十八日(土)

・応募資格 本学国語国文学会の会員であること

・研究分野 日本文学・日本語学・漢文学・日本
語教育・図書館情報学・国語科教育

・応募方法 論題と四〇〇字以内の発表用紙を添
えて申し込むこと

・応募先 日本文学科研究室「国語国文学会

・締切 秋季大会研究発表者募集」宛
平成二十七年九月三十日(水)

・選出方法 国語国文学会にて選考を行い、選考
結果は後日、個別に通知いたします。

訃報

木藤才藏先生(中世文学)が去る平成二十六年七月二十四日に逝去されました。謹んでお知らせいたします。

二〇一五年五月一日発行

日本女子大学日本文学科国語国文学会卒業生の会
〒112-8681 東京都文京区目白台二一八一

日本女子大学 日本文学科内